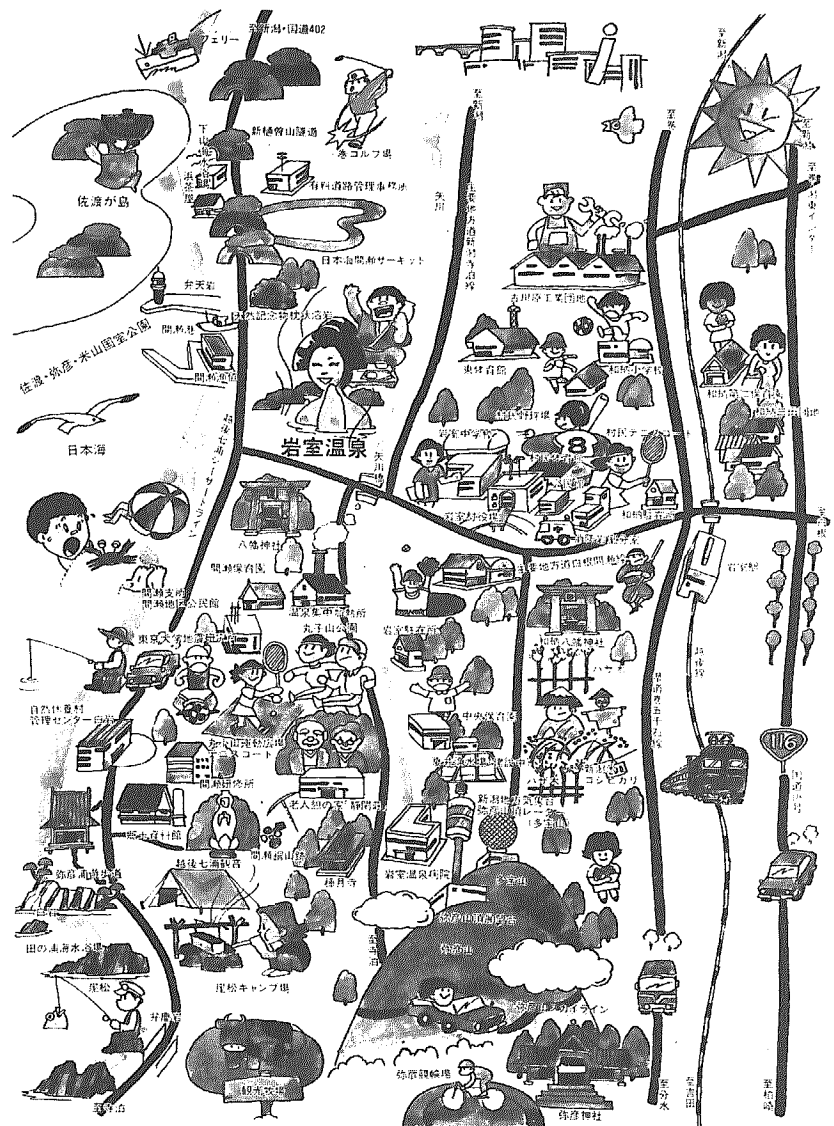




たずねてみよう岩室村実感コース

いわむろむらイラストマップ



あけましておめでとございます。今年(丑年)もみなさんは牛といつとんことを連想しますか。のんびり、のっそり、それとも厚いビフテキ、牛肉の貿易自由化問題、と思いはさまざまでしょう。今年の丑年、モウ烈に生きるもよし、のんびりと人生を反芻しながら生きるもよし、ともかく角つき合わずに仲よくいきたいものです。

ところで、岩室村は誕生して今年でちょうど二十五周年を迎えました。旧岩室村と和納村が合併し、「新岩室村」として発足したのが、昭和三十五年一月。それから四半世紀です。みなさんは岩室村に暮らしていますが、岩室村をどの程度ご存知ですか。意外と知らないことが多いのではないのでしょうか。そこで今月は、おとそ気分のみなさんと、村の片隅をちよつとのぞいてみたいと思います。一緒に散歩としゃれてみませんか。

本村の西南端に位置し、弥彦村に隣接しています。昔は金池原新田(かないけはらしんでん)といい、小道ひとつをはさんで弥彦村上泉と分離しています。地名に池の字がつくように、地区の中央には広さ六五三平方メートルの堤(ため池)があり、地区民の生活の一サイクルに欠くことのできないものになっています。

金池 ●世帯…三九世帯 ●人口…一七七人



消防ポンプ小屋から金池堤を望む



石瀬交差点バス停前

石瀬 ●世帯…一六四世帯 ●人口…六九八人

青龍寺付近から縄文時代の土器などの出土があり、古くから栄えた地区です。江戸時代には代官所が置かれ政治の中心をなしていたようです。また、種月寺、青龍寺、浄専寺、石瀬神社などの神社仏閣にも恵まれています。

変わったところでは、先生と大工さんの多いのも特色です。

本村名の発祥の地であり岩室温泉の中心です。北陸街道の要路にあたる岩室は、古くから弥彦詣の旅人や往来道として栄えた宿場町——今からおよそ二七十年前、傷ついた雁が湯浴びをしたという故事から岩室温泉は別名「霊雁の湯」と呼ばれ、神経痛やリュウマチに効力があります。昨年からは慶覚寺境内で「観光朝市」を開設するなど、新しい観光を進めています。

岩室 ●世帯…二六六世帯 ●人口…八六五人



岩室公会堂から温泉街を望む



樋曾交差点付近から左折すると温泉街へ

樋曾 ●世帯…六四世帯 ●人口…二九六人

樋曾の地名は昔、貴人が隠れ住んだところから、ひそむ(樋曾)と名づけられたと伝えられます。ここを通る北陸街道は、源義経や俳人松尾芭蕉も足跡をのこしたといわれ、良寛もここを訪れ「おとにきく、樋曾の山への紅葉みに、今年ゆかかん、老の名残りに」とよんだ碑が新樋曾山陰道脇に建てられています。